



めじかじ
通信

No.147

彫刻家・鍼灸師

小柳典昭さん (71歳) 〓 大久保 〓

大講師の肩書を持って予備校でも

教えていた。小柳さんは今でも郡

司先生が手作りした、予備校用テ

キストを大事にしている。美大受

験生が参加する予備校主催のコン

クールで、小柳さんは常に3位以

内にいた。長髪に細身のジーンズ

とハイヒールシューズがトレード

マークだった。

ある時、郡司先生が声をかけて

くれた。「いつから、そうなった

んだ？」だぶだぶの作業着で粘土

と格闘していた時だ。褒めても

らったと気が付いた。予備校で3

年間学んだ後に、小柳さんは最難

関とされる美大に入学したが、そ

こに郡司先生の姿は無かった。教

授とのいさかいが元で大学を去っ

たと聞いた。

大学は「芸術の職業訓練校のよ

うだった」という。彫刻科ではノ

ミの研ぎ方、タガネの焼き入れ、

石の割り方、金属の溶接など職人

としての技術を叩き込まれたと話

す。粘土が好きで、塑造を選んだ

小柳さんは「塑造については、技

術も技法も誰も何も教えてくれ

ず、自分ですべて考えて工夫した

という。その結果の成績は良く、

学部3年の時に「国画会」に初出

品。その後連続入選して新人賞を

受賞した。大学で教えながら制作

活動する道が約束されていた。

問題は「何を作りたいのか、が

希薄だったところ」という。小

柳さんは美術界を離れた。様々な

アルバイトを経験した後、最初に

就職したのは商品開発の仕事だっ

た。少しずつ注文があつて、彫

刻の仕事も続けていた。39歳の時

にふと「もっと人の役に立つ仕事
がしたくなり」理療専門学校に入
学し、鍼灸師の資格を得た。その
後はずっと病院に勤務してきた。

30年ぶりで美術界に戻ったと思

えたのは、様々なポーズの五連作

を作り始めた時だった。郡司先生

の教え「朝8時半にはアトリエに

入る」を守って取り組まざるを得

なかったのだ。依頼主は「自分の

コレクションに加えて、ニュー

ヨークで展覧会をする」と言っ

た。塑像を作る時、小柳さんの

肩越しに聞こえる郡司先生の叱咤

激励の声は若い。40代で水の事故

のため亡くなっている。「年齢に

反比例するかのよう」小柳さん

の創作意欲は高まっている。地元

の公募展で人生二度目の新人賞を

受賞し、小説やエッセイや絵本に

取り組む、自費出版したジュニア

SF小説は完売した。塑像はあと

20点、を目標にしている。

(取材・文 佐藤 万千子)



小柳典昭さん
と作品3点



ゆらさんの四季の薬膳

春とキャベツと菜の花と



厳しい冬の後の春。心もか
らだも開放感に溢れています。
ですが、春は体調管理に注意
が必要な季節でもあります。
風邪やウイルスなどの感染症、
精神疾患、高血圧、不眠、め
まいなど：からだの上部に出
る疾患が多いことにお気づき
でしょうか。春は気が上に昇
りやすいからです。さらに消
化機能も低下しやすい。

そこで注目したいのが、こ
の時期収穫される春キャベツ
と菜の花です。特に菜の花は
春積極的にとってほしい野菜
で、冬の間に蓄えられた体内
の不要物を解毒してくれ、血
流を改善、便秘の解消にもな
ります。ビタミンCはほうれ
ん草の約4倍とも。一方キャ
ベツは疲れた胃を元気にし、
筋肉を補い、発がん物質を除
去する働きが。さらに老化防
止の効果も期待できます。

だけど、ゆでたり炒めたり
だけではねという向きには、
フランスのエチュベはいかが。
鍋に野菜を入れ少量の水分と
オリブオイルで蒸し煮にする
だけ。春を感じるはず。

(国際中医薬膳師 小清水由良)